

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

# 吉田つとむ

納税者主権の政治・リニア新幹線



町田市議会

〒194-8520

東京都町田市

森野 2-2-22

☎042-724-2171

2期連続トップ当選

## 熊本地震と予約キャンセル

熊本地震に関して、熊本県内の現場として最後に訪れた山鹿市平山温泉は、目立った地震被害は発見できないエリアでした。しかし、「熊本」であることで観光客の減少は著しくなっていました。観光都市にとって、重大な課題でした。九州全域では、50 万件以上の宿泊キャンセルが発生したと集約されています。

翻って、地震発生以降、自衛隊はもちろん、鉄道、高速道路の工事関係者が現地に入り、一早い復旧に取り組まれています。あわせて、自治体やその関係工事業者の皆さんが復興支援で現地に入っており、九州縦貫道の沿線都市ではその宿泊者で満杯になるところが多くなっていました。ちなみに、私が別途、視察用件があった福岡県内の都市でも工事関係の宿泊者が大勢見受けられました。

ところで、同じ熊本県内でも、益城町などから離れている山鹿市では、その宿泊状況が全く異なる二つの様相を見せていました。どうしたことかと言うと、山鹿市中心部の山鹿温泉の辺りは、工事関係者の宿泊予約で 6 月まで埋まっていると言う状況でした。他方山鹿市郊外の平山温泉では、5 月連休の後半頃以降、ガラガラの状態でした。その平山温泉は、日頃「隠れ家」的な要素を売りにして人気が高いところですが、それが裏目に働いていました。率直なところ、工事関係者には毎日の宿泊にはやや物足りない面があるようです。こうしたことも様相も伴って、この平山温泉では、工事関係者の宿泊キャンセルが発生し、キャンセル料も無く、零細な宿泊施設では黙って、泣き寝入り状態になっていました。

## 被災地応援の考え方・実態

観光客と工事作業従業者の宿泊者の場合、施設や関係業者から見ると何が異なるかと言えば、観光客はまず宿泊をした上で、飲食をする客も、買い物客もあり、この三者を備えた存在ですが、工事関係の宿泊者では、昼の飲食はその街で取らず、買い物をする人数も大幅に減ります。それでも、宿泊施設にとっては、宿泊者が滞在してくれることは、安定収入になっていました。すなわち、山鹿市内中心部の宿泊施設にとって、6 月までは宿泊予約が確保されていました。ただし、前記の平山温泉では、宿泊者自体がほとんどなくなった状態が継続する事態が生じていました。熊本県内でも、同様のケースが多数あるものと推測されました。



国の地震に関する復興予算が多額に投入されるわけですが、果たして、その支援部隊が宿泊地を便利な福岡辺りに置くやり方はいかなるものかと感じました。「被災地復興」と称しつつ、ほかのところを潤すことになっている例が生じていることを、熊本・福岡の現地を訪れて感じました。

★無所属で活動・市議会は保守連合 吉田つとむ発見動画チャンネル

URL <http://j-expert.jp/> ユーチューブ <http://jp.youtube.com/yoshidaben>

編集 〒194-0011 町田市成瀬が丘 1-14-12 サンホワイト E103-13 吉田つとむ (市議会議員)

町田市議会議員・良識ある保守主義を目指す

# 吉田つとむ

セミナー主催・インターンシップ主宰



楽しい社会体験プログラム



携帯QRコード  
でブログ閲覧

## 研修レポート④藤澤美彩子

町田市金森にある「子どもセンターばあん」の行事に参加しました。私は、「ばあん」の向いにあるむつみ公園で青少年健全育成地区委員会の方々が運営する工作コーナーと一緒に参加させていただきました。皆さん、手慣れた手つきで設営し、また子どもが喜ぶことを理解した上で子どもの興味を引くことを出し合い、実行するというのが印象的です。私は子ども関連に興味があり、大学の学びにも近いものがあつたので大変勉強になりました。

中学生のときに実際に「ばあん」を利用していましたが、また違った視点で捉えることができました。また、館内で行われていた出し物で子ども委員会が運営しているところがいくつかありました。町田市在住の小学3年生から18歳までが子ども委員会に所属可能だそうで「ばあん」という名前や各部屋の名前、館内でのルール、お祭りの企画など様々の場面で活躍しているようでした。小学生のころからディスカッションや企画・運営力を身に付ける場面が設けられていることは素晴らしい取り組みだと感じました。

地域の方と触れ合う機会は今まであまりなかったのですが、このような機会に参加できてよかったです。



恵泉女学園大学3年生 藤澤美彩子(第38期)

## 「あまおう」は新種改良等の成果

味覚シーズンは終了しましたが、イチゴの「あまおう」というブランドについて、産地の福岡で学びました。



まず、この「あまおう」を開発したのは「福岡県農林業総合試験場 野菜部 イチゴチーム」という機関の人たちでした。通常、イチゴはランナーと言う小株が伸びて新しい芽が伸びだしますが、品種改良では種子が用いられます。品種を掛け合わせ、2万分の1の確率で新作が改良され、名称も新規に付けられました。

「あまおう」は、わずか20年で全国ブランドとなり、出荷額でもコメの販売高に匹敵する福岡県産の農産物になっています。主生産地の八女地方では、特産の八女茶をはるかに上回る販売高を例年占めるようになっていきます。ただし、その間には収穫ゼロの畑が出る時代もあったということで、新品種の開発とともに、安定収穫も重要な研究テーマであったと知りました。パッケージ作業をJAがラインを作って受け持つようになり、農家の作業が効率的にされたことも含め、試験場とJAの協業の成果と言えます。関東の「とちおとめ」と全国シェアを分け合うまでに成長した理由を生産・流通レベルで学びました。

★吉田つとむの連絡先 TEL 042-795-7361 FAX 042-795-2726

◇ どうぞ、町田市政や議会に関するご要望や、ご意見をお気軽にお寄せ下さい。

Mail : [yoshidaben@gmail.com](mailto:yoshidaben@gmail.com) mobile: [yoshidaben@docomo.ne.jp](mailto:yoshidaben@docomo.ne.jp) (モバイルのみ接続)